A14 建築・都市・生活環境評価のための気象データ整備

工学部・建築学科・准教授・細淵 勇人
hhos@aitech.ac.jp

キーワード　気象データ、日射量、気温、湿度、PAR、紫外域日射量

概要

今世紀から次世紀末にかけ日本の平均気温が 2.1～4.0℃上昇するという気象庁の試算など、今後、世界的にはもちろん日本国内においても、平均外気温の上昇が見込まれ、地球規模の温暖化の継続、進行、日本各地の気候変動が現実のものとなると考える。

このような地球規模の温暖化の進行に対する適応策、緩和策を具体化するためには、 建築・建設分野の省エネルギー化、エネルギーの有効利用は当然のこととして、未利用エネルギーや、自然エネルギーの活用が求められている。このような未利用エネルギーや、自然エネルギーの利活用を考えれば、従来の環境評価や建築設計の際には考慮されていなかった、気象データの必要性も生じてきており、このような従来観測されていなかった気象要素の観測および分析を進めている。

セールスポイント

1．建築分野では従来考慮されていなかった気象要素の観測実績。
2．国内にとどまらない建築・都市・生活環境評価のための気象データの観測・分析。

企業等での活用例、今後の展望等

1．国内外における建築・都市・生活環境評価のための気象データの開発。
2．建築・都市・生活環境及び消費エネルギーの将来予測。

参考資料

・細淵勇人，中山哲士：熱環境設計における気象データ及び気象モデル，第46回 熱シンポジウム「新しい時代の熱環境デザイン～測定とシミュレーションによる設計・評価～」シンポジウム資料, pp33-38, 2016.10